

令和6年度 岡山県立林野高等学校 具体的な学校経営目標・計画 (案)

重点目標	関係分掌	方策(具体的取組)	評価基準(評価可能数値)	中間評価	中期進捗状況	評価	年度未達成状況	新年度への課題
1 日本ICT教育 トッランナー校として、さまざまな場面でICTを活用し、主体的・対話的で深い学びを実現する。	進路指導課	○日常的な記録も残せるようにし、日々の振り返りを促す。 ○学習実態調査を年5回行うと同時にその結果を早く生徒にフィードバックすることで学習時間の確保を促す。 ○模試の事前事後指導を丁寧に行う。 ○教務課、授業改革PT等と連携を図り、授業改革や課題の個別化に取り組む。	○学校自己評価アンケート(教員)「学校は、生徒が自ら学び、行動する力を育てている」肯定率80%以上 ○学校自己評価アンケート(生徒・保護者)「学校は、授業の内容や指導方法について工夫をしている」肯定率80%以上 ○進研模試において各教科のGTZ「B」以上の生徒が30%以上、「D」の生徒が25%以下 ○国立大学合格者数が15名以上 ○就職希望者の内定率が100% 4項目以上達成(A) 3項目達成(B) Bに満たない(C)	B	○7月記述GTZ B以上:1年国46.1%数24.4%英20.5%、2年国36.1%数29.2%英16.5%、(3年国58.6%数40.4%英24.1%地歴44.8%理21.9%)、7月記述GTZ D:1年国26.9%数43.6%英33.3%、2年国21.6%数33.3%英33%、(3年国6.9%数21.1%英27.6%地歴6.9%理31.6%)。模試に向けた取り組み、模試結果の分析、模試後の指導を充実させる。 ○活動報告書の入力時間を1学期終業式の日に確保できた。内容の充実、日々の記録が課題。 ○学習実態調査は1学期に2回実施。1年は微減、2・3年は増加。結果は速やかに分析、共有し、生徒にも集会や通信によりはたらきかけた。	B	○学校自己評価アンケート(教員)「学校は、生徒が自ら学び、行動する力を育てている」肯定率92% ○学校自己評価アンケート(生徒・保護者)「学校は、授業の内容や指導方法について工夫をしている」肯定率86.6%(生徒)、82.5%(保護者) ○11月記述GTZ B以上:1年国37.8%数23.9%英14.7%、2年国32.2%数19.4%英29.0%地歴25.3%理科26.3%、11月記述GTZ D:1年国33.8%数47.9%英29.3%、2年国25.6%数31.2%英20.4%地歴40.0%理33.0%。 ○国立大学合格者数7名(12月末現在) ○就職希望者の内定率100%	○授業を中心として、家庭学習や模試等においても学びの見直しをもたせる工夫が必要。 ○個に応じた指導(授業内外)を充実させる。 ○外部模試の事前・事後指導を充実させる。また、分析と情報共有の方法を再考する必要がある。 ○外部模試の実施や家庭学習のあり方を検討する。
	2年次	○ペア・グループによる学び合いや考えをまとめたり表現したりする授業を学年で共有する。 ○各教科で探究のサイクルを意識した授業展開を行う。 ○授業だけでなく担任面談、三者面談などで生徒自らプレゼンテーションを行う機会を増やす。	○授業評価アンケートの肯定的回答が80%以上。 ○学年団の全教員があらゆる場面でICTを活用している。	A	○授業評価アンケートの回答は概ね肯定的である。 ○普段の授業で端末を活用する割合が岡山県の2年生(53校中)で最も高い(令和6年度1人1台端末活用による学びの変容状況把握のためのアンケート)。	A	○授業内外の様々な場面で端末を活用することができている。 ○授業だけでなく、三者面談などで毎回生徒がプレゼンテーションを行った。	従来の調べ学習・他者参照、プレゼンなどでの活用から、AIを活用することでのより深い学びにつながる活用を研究していきたい。
	1年次	○デジタルベースで可能な情報や学習内容について、効率的・効果的に生徒と教員双方が情報を共有・発信することができる。	○生徒および指導する教員全員が実施している。	B	授業では、教員の59.4%(校内全体)がほぼ毎回授業で端末を活用している。また、1年生の32.9%が毎日3つの授業で端末が活用されている旨アンケート回答している。(令和6年度1人1台端末活用による学びの変容状況把握のためのアンケート)。	B	多くの教員生徒が学校生活において端末を活用することができている。	入学当初に比べ、生徒も様々な場面で、自分なりに使用方法を考え、使用するようになってきている。一方で、適切でない使用について、授業への集中についていかに指導していくかが課題である。
2 資質・能力の育成を基盤とした授業改善を進め、個別最適な指導を行う。	教務課	○探究的な授業実践に関する教科間の共有を行う。 ○考査・課題の在り方や多様な実践に関する教科間の共有を行う。 ○観点別評価の適正な運用について教科間の共有を行う。	左記の各項目について年間2回以上行うことができた項目が 3つ(A) 2つ(B) 1つ(C)	C	左記いずれの項目も共有会を開催できていない。 共有会設定のタイミングを逸したのが原因である。 第3回、第4回定期考査前で計画を実行する。 単元テストへの移行について議論する必要がある。	B	教科主任会議を開催することはできなかったが、課会議や職員室内での共有により探究的な授業実践や考査の在り方については議論を深めることができた。	放課後の会議の精選や、業務負担の軽減に取り組むことが急務であり、現状では教科主任会議すら開催することができない。チャット等を利用して会議以外の共有方法も充実させていく。また統一感のある観点別評価の運用については、各教科の実態を入力シート等で共有していく。
	3年次	○自分の考えをまとめたり表現したりする活動や学び合いを通じて、主体的に学びに向かい、学び続ける力を育成する。	○授業評価アンケートの肯定的回答が80%以上。	B	○授業評価アンケートの回答は概ね肯定的である。	B	○授業評価アンケートの回答は概ね肯定的である。	○他校と比較できる外部アセスメントの振り返りと授業との関連性を考察する必要がある。
	2年次	○意識付け(放課後教室や手帳の活用)の仕掛けを計画し、学び合いや考えをまとめたり表現したりする場面を増やす。 ○スタディサプリを活用して家庭学習時間を充実させる。 ○定期的に学年での重点項目を共有し、各教科が連携して小テストの実施や課題など調整する。 ○担任面談だけでなく、志望校別・教科別面談を実施し様々な観点で生徒の進路をサポートする。 ○校外模試の見直しを行う。	○授業評価アンケートの肯定的回答が80%以上。 ○生徒の家庭学習時間が平均で平日30分以上、休日は1時間以上増加する。	B	○授業評価アンケートの回答は概ね肯定的である。 ○学習実態調査の意識付け、週末課題の工夫などで土日の学習時間は増加してきた。一方で、平日の学習時間の増加は課題である。 ○スタディサプリの利用が限定的になっているので、より個別最適な活用の検討が必要。	B	○授業評価アンケートの回答は概ね1学期と比べても肯定的であった。 ○学習時間が2学期以降は増加しなかった。 ○スタディサプリの利用は地歴・数学で積極的な利用がみられた。	週末課題のあり方を検討しつつ、個々の生徒が自らやるべき課題に取り組むことが出来るような指導をしていきたい。
	1年次	○授業担当者、生徒の状況を共有する。 ○スタディサプリを利用した、中学校までの学習内容の復習や学習習慣を確立する。 ○手帳を活用した、計画的な目標設定をする。	○授業評価アンケートの肯定的回答が80%以上である。	B	○1学期の授業評価アンケートでは肯定的な回答が多い。 ○多くの科目でスタディサプリを利用しており、当初の予想よりも生徒は取り組んでいる。 ○計画や目標設定には今後もサポート体制を考える必要がある。	B	○2学期の授業評価アンケートでも概ね肯定できてある。 ○数学・地歴を中心にスタディサプリも適宜利用できている。	自分で計画や目標設定したことを、どうフィードバックしていくか、その方法をレクチャーしたり共に行う時間を作ったりする仕掛けを考えたい必要がある。
	授業改革PT	○教員間で授業研鑽をはかるための機会として、互いの授業参観の機会を設定する。 ○授業評価アンケートを実施し、結果を教科会議等で活用してもらう。 ○教科研究会を実施し、成果や課題を全体で共有する。 ○「授業スタンダード」の策定と授業評価シートの見直しを行う。 ○研修会を月1回以上実施する。	○「授業スタンダード」の策定と授業評価シートの見直しをした上で、8割の教員が授業見学を年間5回以上行う。 ○学校自己評価アンケート(生徒・保護者・教員)「学校は、授業の内容や指導方法について工夫をしている」肯定率90%以上 ○研修:月1回実施 3項目達成(A) 2項目達成(B) Bに満たない(C)	B	○「授業スタンダード」の策定と授業評価シートの見直しを実施。11月授業公開週間までにブラッシュアップする。毎月末に授業見学回数等の調査を実施。授業見学5回以上は10名(33%)、0.1回は7名(23%)。引き続き相互研鑽を働きかける。 ○毎月1回研修を実施(うち1回は外部講師を招聘)。引き続き、生徒一人ひとりを主語にした授業の実現に向けた研修を工夫する。教科研究会は地歴・数・理・英で1回実施。	B	○授業見学を年間5回以上行った教員80.6% ○学校自己評価アンケート(生徒・保護者・教員)「学校は、授業の内容や指導方法について工夫をしている」肯定率86.6%(生徒)、82.5%(保護者)、96%(教員) ○研修:月1回以上実施した(4~12月で11回)。教科研究会は12月末現在、数・理・英で2回、国・地歴で1回実施。	○「授業スタンダード」や授業評価を活用し、授業見学がより相互の研鑽に資するよう工夫したい。 ○職員会議後の研修の方法や内容について要検討。また、研修時間の確保が課題。 ○教科研究会にもっと全教員が関わられるようにしたい。
3 生徒自身が主体的・計画的に取り組む活動等を展開する。	生徒課	○各委員会、生徒会執行部から学校内に向けた企画や啓発を行う。 ○ボランティアや、委員会等の活動記録を残すためのフォーマットを整える。	○各委員会、生徒会執行部単位で校内に向けた活動を1回以上行うことができた団体(※全10団体)が、 7団体を超える(A) 5団体を超える(B) 4団体以下である(C)	B	○生徒会執行部が、全校生徒を対象にした学校への要望についてアンケート調査を実施した。 ○保健委員は「保健だより」や文化祭での教員の健康に関する取り組みをまとめたポスター作成を行った。 ○図書委員は「図書だより」を1学期に1回、2学期に1回発行し、情報発信を行っている。 ○文化委員による「あがりん祭全校製作」を昨年度に引き続き実施した。	B	○今年度の活動は以下のとおりである。 保健委員 保健だより、教員の健康法まとめポスターの作成、熱中症警戒表示作成 図書委員 図書だより 風紀委員 自転車通学ヘルメット着用推進運動 自転車鍵かけ呼びかけポスター作成 美化委員 ごみの分別呼びかけ活動 生徒会執行部 あいさつ運動、球技大会の企画運営、全校生徒へのアンケート調査 文化委員 あがりん祭文化の部全校制作の企画運営。 通常の委員会活動に加え、6団体の校内に向けた活動を行った。また、生徒会執行部は球技大会を企画運営するなど、主体的な活動ができた。	○次年度は年度の当初より、校内に向けての活動を計画し、更に生徒の意欲的で主体的な活動を促したい。
	授業改革PT	○「授業スタンダード」をもとに、教員間で授業づくりを共有し、全教員で授業改革に取り組む。 ○振り返り(授業後・単元末)を徹底する。 ○「家庭学習スタンダード」の見直しを行う。 ○研修会を月1回以上実施する。	○学校自己評価アンケート(生徒・保護者・教員)「学校は、生徒自ら学び、行動する力を育てている」肯定率90%以上 ○授業評価アンケート(生徒)「授業(あるいは単元全体)を振り返る機会がある」肯定率90%以上 ○研修:月1回実施 3項目達成(A) 2項目達成(B) Bに満たない(C)	B	○授業評価アンケート(生徒)「授業(あるいは単元全体)を振り返る機会がある」肯定率87%(1年89%、2年89%、3年83%)。 ○毎月1回研修を実施(うち1回は外部講師を招聘)。「家庭学習スタンダード」の見直しを行い、課題のあり方等を検討する。	B	○学校自己評価アンケート(生徒・保護者・教員)「学校は、生徒自ら学び、行動する力を育てている」肯定率90.2%(生徒)、87.3%(保護者)、92%(教員) ○「家庭学習スタンダード」について検討に入ったが、時間よりも家庭学習との向き合い方のようなものを作成する必要があるか、課題の量や質についても見直す必要がある。進路指導課、教務課、各教科等との連携が必須である。	
4 生徒自身が社会との関わりの中で、自らの生き方を考え進路を実現することができるように指導する。	教務課	○進路志望に沿った多様な科目選択が行えるように、分かりやすいコースの設定をする。 ○オープンスクールや小中学校との連携を通して本校の魅力と生徒の変容を伝える。	学校自己評価アンケートおよび地域に対するアンケートを実施し、左記項目に関して肯定的な意見が 9割を超える(A) 7割を超える(B) 7割未満(C)	B	教育課程編成については2学期以降に進んでいく。 オープンスクールにおいては昨年からの改善を図り、受講講座数の満足度は99.7%であった。	A	科目選択については学年教務が適宜スライド等を用いて説明を行い、生徒90.6%、保護者82.5%の肯定率であった。オープンスクールや学校説明会では左記のとおり好回答を得ている。	教育課程編成については「子どもの興味・関心・適性・進路に応じた科目選択ができる」という点にフォーカスし、より学びたいことが学べる、なりたい自分になれる科目選択になるよう継続的に議論を進めていく。また生徒が自己理解を深めることができる教育活動を進め、真に将来を見据えた科目選択となるようにしていきたい。
	進路指導課	○「ふりかえり力向上手帳」などを利用して自己管理能力の向上を促す。 ○各学期に1度以上の面談を行い、生徒の進路意識の向上を促し、進路研究の重要性を伝える。 ○キャリアパスポートや活動報告書を3年間を通じて使用できるようにすると同時に、振り返りの時間を確保する。 ○進路ニュースや進路指導課サイトの運用を変え、情報発信性やメッセージ性を高める。LHR、SHR、年次集会等で旬な情報を発信する。	○進路満足度調査「自分の進路決定に満足していますか」肯定率90%以上 ○各学期に1度以上の面談を行う(100%) ○進路満足度調査「3年間の自分の努力に満足していますか」肯定率90%以上 ○学期に1度以上の面談を行う(100%) ○学校自己評価アンケート(教員)「学校は、MDP(総合的な探究の時間)などの活動により、生徒の『生きる力』を育てている」肯定率80%以上 ○学校自己評価アンケート(生徒・保護者)「学校は、情報提供や生徒面談など進路指導をきめ細かく丁寧に行っている」肯定率80%以上 4項目以上達成(A) 3項目達成(B) Bに満たない(C)	B	○全次生で手帳を導入。活用状況にはばつきがある。呼びかけの工夫が必要。3年次生はスプレッドシートを活用してスケジュールの管理・共有をしている。 ○どのクラスも面談を2回以上は実施。状況把握と適切な声掛けができています。 ○進路ニュースや各学年のClassroom、39mailを活用した情報発信ができた。	B	○進路満足度調査 未実施 ○学期に1度以上の面談を行う(100%) ○学校自己評価アンケート(教員)「学校は、MDP(総合的な探究の時間)などの活動により、生徒の『生きる力』や『進路を実現する力』を育てている」肯定率88% ○学校自己評価アンケート(生徒・保護者)「学校は、情報提供や生徒面談など進路指導をきめ細かく丁寧に行っている」肯定率89.8%(生徒)、81%(保護者)	○LHR計画、小論文指導、志望理由書指導、面談内容等を体系化し、ブラッシュアップさせながら引き継いでいきたい。 ○諸活動に主体的に関わらせる工夫、振り返りの方法と内容の検討。

	3年次	○面談や相談体制を充実させるとともに、教員間の情報共有を密に行い、生徒が教員の助言を判断材料の一つとして素直に受け入れられる関係を構築する。	○国公立大学合格者数25名以上を目指す。 ○進路決定満足度調査において満足・やや満足90%以上。	B	○未実施・未確定ではあるが志望を落とさずに取り組んでいる生徒も多い	B	○進路指導課を中心として、担任と連携を図り、進路指導が行われている。 ○進路決定満足度調査はまだ実施していない。 ○共通テスト前までで国立決定者7名。	○学年団としての進路の取り組みをまとめ、次年度に引き継ぎ、充実した活動になるようにする。
	2年次	○大学だけでなく、生徒と様々な社会人を結びつける取り組みを実施する。 ○様々なコンテストや発表会を研究し、生徒が外部で発表できる場を増やす。 ○授業でプレゼンテーションや論理的な思考を文章で表現できる取り組みを充実させる。 ○主に就職志望者を対象としたインターンシップを実施する。	○校外の発表会・コンテストなどに20名以上の参加。 ○就職志望者は全員インターンシップに参加する。	B	○ノヒトカンコンテストに5名、ユネスコスクールに7名の生徒が参加している。また、Google事例校サミットでの発表に3名、岡山物理コンテストに9名が参加予定である。 ○インターンシップには1学期末での就職志望者の11名全員が参加した。 ○学習合宿を実施し、国公立大学志望者の13名が参加した。	B	○物理コンテスト9名、MDPの外部コンテストでも3名が参加し、外部での活動については、20名以上が参加できた。	○進路実現に繋がる効果的な活動に結び付いたかどうかは、引き続きの指導や振り返りが必要。 ○より多くの生徒が主体的に参加できるような仕掛けや情報収集が必要。
	1年次	○進路講演会や夢ナビなどを効果的に利用し、現時点での将来像をより具体化していく。 ○進路選択に応じた、適切な科目選択を行うよう、面談等を通じて助言していく。 ○インターンシップやボランティアなど、校外での活動をおして働くこと、職種への理解を深めたり、様々な人の価値感に触れる。	○ボランティア、インターンシップ、姉妹校交流、コンテスト等、校外での行事や校外の方との交流に20名以上が参加する。	B	○インターンシップは来年度に持ち越すこととした。 ○夏現在、延べ20名弱の生徒が校外での活動に申し込んでいる。 ○進路研究については、今後も具体的に必要に応じ面談等も行いながら具体的なビジョンを持たせていく。	A	○延べ人数上は目標を達成できている。 ○進路研究については、だんだん具体的に考えられるようになってきているが、時間が足りない。	校外や課外での活動という点では、中々積極的に参加できる生徒ばかりではないため、多くの生徒が参加していくための方法を考えていく必要がある。
5 「開かれた学校」の観点から、小中学校・地域との連携や姉妹校との国際交流などを通じて生徒の豊かな人間性を育成する。	生徒課	○各委員会、生徒会執行部が外部団体と連携をとり活動する。 例) 標語、ボランティア、コラボレーション	○各委員会、生徒会執行部単位で校内に向けた活動を1回以上行うことができた団体(※全10団体)が、 6団体を超過(A) 4団体を超過(B) 3団体以下である(C)	A	○生徒会執行部と風紀委員は美作警察署交通課と連携し、自転車通学者を対象に「ヘルメット着用推進運動」を実施した。 ○保健委員は美作保健所、美作警察署と連携し「薬物乱用防止啓発運動」を行った。 ○生徒会執行部は美作中学校に出向き、「あがりん祭文化の部」のPR活動を行った。また、美作市総合戦略会議に出席し、高校生目線での美作市への要望を提案するとともに今後の林野高校のあり方についても意見を出した。 ○生徒会執行部は「広報みまかさ」への原稿寄稿を行った。	A	○今年度実施した活動は以下のとおりである。 風紀委員 ヘルメット着用推進運動 保健委員 薬物乱用防止啓発運動 体育委員 あがりん祭体育の部IPUとの連携 生徒会執行部 美作市総合戦略会議出席、高校生議会出席、あがりん祭文化の部PR活動 校外の団体と連携して活動をおこなった団体が4団体であった。特に生徒会執行部は高校生議会に出席し高校生目線での意見を出すなど、他の模範となる活動であった。	○より生徒主体で活動できるよう、年度当初より、計画をすすめていく。校外活動への積極的な参加をすすめ、その学びを校内に還元できる仕組みづくりを作る。
	グローバル人材PT	○姉妹校や中国語講座などの国際交流の機会を年間18回以上行う。 ○事前と事後にアンケートをとり、回答の肯定群が全体の8割以上となる。 ○属人的な業務とならないように、交流の内容や時期、進め方の記録を残す。	左記の各項目について実施できた項目が、 3つの場合(A) 2〜1つの場合(B) 0の場合(C)	B	○姉妹校交流は4月〜6月で3回実施。中国語講座は9月より13回実施予定。 ○Googleドライブの整理と年間業務フローの作成を行った。 ○修学旅行にて姉妹校と対面での交流やホームステイなど実施予定。 ○11月に中国の上海奉贤区至遠中学、12月に国立台南第二高級中学の来校が予定されている。	A	○姉妹校オンライン交流は7回実施。中国語講座は13回実施(実施予定も含む)。 ○修学旅行などによる実地交流を実施した。 ○国際交流に関するアンケートでは、コミュニケーションの方法が理解できたり、自分自身の成長につながったという質問に対して、回答の肯定群は全体の8割以上であった。 ○ほぼ全てのデータをGoogleドライブに移行した。また、年間業務フローの作成とともに、必要なデータなどの精選を行った。	○交流の回数は目標値に達しているため、今後も継続していきたい。 ○生徒の満足度を高めるために、ただ交流を行うのではなく、目的を教員と生徒で共有しながら交流を行う必要がある。 ○姉妹校訪問などの受け入れ体制を含めて、今後も無理なく継続できる交流の在り方を模索する必要がある。
	学校広報PT	○ホームページをリニューアルし、学校案内やチラシなどとのトータルコーディネートを図る。 ○SNS(ブログ、フェイスブック、インスタグラム、ライン)を通して日々の生徒の活動を伝える。 ○広報チラシを作成し中学生に配付(合格実績、OS案内、林野高校通信)。 ○中学校主催進路説明会に参加 ○本校主催学校説明会の開催	○ホームページが9月までにリニューアルされている。 ○SNSが年間100件以上発信されている。 ○学校自己評価アンケート(生徒・保護者)「学校は、HPや広報誌、新聞、テレビ等を通じ、教育活動を生徒・保護者・地域に広く発信している」肯定率90%以上。	B	○ホームページは、トップページのイメージが固まり、現在、下層ページの検討中。 ○SNSの全教員による発信体制ができた。更新数が現在70件。 ○各種案内チラシ作成(合格実績、スクールガイドダイジェスト版、第1回OS、全国募集、スクールガイド、林野高校通信、第2回OS)	A	○ホームページリニューアル11月末完了。 ○SNSの更新137件(12月末現在) ○各種案内チラシを年度当初の計画通り作成・配付した。 ○学校自己評価アンケート「学校は、HPや広報誌、新聞、テレビ等を通じ、教育活動を生徒、保護者、地域に広く発信している。」の肯定率が、教員100%、生徒88.2%、保護者88.9%。	○HP、SNS、チラシ、ポスターなど、様々な媒体を広報活動に効果的に活用していきたい。 ○外部広報に合わせた内部広報も行う必要がある。
6 組織的で効率的な学校経営や個人の意識改革を進め、業務の負担軽減を図る。	教務課	○指導要録作成に関する業務フローを作成・運用する。 ○成績管理に関する業務フローを作成・運用する。 ○時間割業務に関する業務フローを作成・運用する。	左記の各項目について整備できた項目が 3つ(A) 2つ(B) 1つ(C)	A	第1回定期考査からスプレッドシート版チェックリストの運用を開始し、第2回定期考査ではチェックリストを意識した成績処理について念を押しした。業務フローの確立までは至っていないが、ミスを出すことなく成績処理を行うという点では及第点である。要録、時間割については2学期以降に実施するものと考えている。	A	従来から使用していた各業務マニュアルにチェックリストを併用し、業務フローが理解できるように整えた。業務フローそのものとして可視化できていないが、リスクマネジメントの機能が果たせている。	業務フローとして業務を可視化することで効率化や課題発見につなげるという狙いのもと、次年度は分掌業務のマニュアル・チェックリスト・業務フローの整備を更に進めていく。
	生徒課	○紙媒体で行っていた調査、回覧、諸届をICTを活用しより効率的に機能させる。 ○「生徒課だより」によって他分掌教員へ生徒課業務への理解を促す。 ○校務の流れや反省・課題点などを記録し、次年度につなげられるようにする。	○ICT化した各種申請をより効率化できるように改善する。 ○生徒課だよりを2ヶ月に1回以上発行できる。 ○生徒課で共有したシートに行事の反省、改善点を記録する。以上3点のうち 3つが達成できている(A) 2つが達成できている(B) 1つだけ達成できている(C)	B	○会議資料をクラウド上で作成保存することが徹底できている。 ○派遣伺、学校生活アンケートはフォームで実施し、その他Classroomを用いた委員会・生徒会への指示や委員会での議事録の作成等を行っている。 ○学校行事後はクラウド上に反省点や次年度への引き継ぎ等を作成し、業務の効率化を図っている。 ○生徒課だよりは今年度作成できていない。	B	○派遣伺などの様式は継続してクラウド上で管理できしており、効率化を図れている。 ○学校行事の振り返りはクラウド上に蓄積することができしており、整理し次年度に引き継げる状態である。 ○生徒課だよりは発行できていない。	○各種申請手続きがICT化して完結するようになっていたので、さらに浸透させたい。 ○今年度の反省を踏まえ、行事のスリム化やさらなる充実を図りたい。
	進路指導課	○Google Workspace を活用し、様々な情報を共有、周知できる仕組みを構築する。 ○わかりやすく引き継ぎ資料を残す。	○学校自己評価アンケート(教員)「学校は、情報提供や生徒面談など進路指導をきめ細かく丁寧に行っている」肯定率80%以上 ○学校自己評価アンケート(教員)「学校は、教職員が勤務しやすい体制を整えている」肯定率70%以上 2項目達成(A) 1項目達成(B) Bに満たない(C)	B	○進路指導課主催行事やLHRについては工夫して実施した。インターンシップや学習合宿など新たな取り組みも開始した。大小様々なところで新しい挑戦をしている。 ○課題考査や夏期補習の集約、各資料のドライブ移行など、クラウドを活用した業務効率化、情報共有の効率化に取り組んでいる。また、都度記録を残すようにしている。	A	○学校自己評価アンケート(教員)「学校は、情報提供や生徒面談など進路指導をきめ細かく丁寧に行っている」肯定率80% ○学校自己評価アンケート(教員)「学校は、教職員が勤務しやすい体制を整えている」肯定率52% ※2項目目は基準を下回るが、企業セミナーなど新たな取り組みをいくつか実施できた点、諸行事については前年の課題をクリアしながら実施できた点、実施後には振り返りを行い課題点等をクラウドに残し引き継いでいる点を鑑み、評価Aとする。	○進路関係行事の精選、内容の再考。 ○評価基準の再検討。
	2年次	○教員間で細やかな情報共有を行い、年間回覧・連絡ボード・Google Chatなどにより情報を共有する。	○放課後会議を行う必要がないように、効率的な情報共有ができている。	B	○朝礼シートやGoogle Chatを活用して、日頃から細かな情報共有に努めた。会議は必要に応じて行い、事前資料配布など効率的に行った。	B	ICTも活用しながら、年間を通して効果的に情報共有を行うことができた。	情報の共有にとどまらず、積極的な情報・意見の発信の場としても活用していきたい。
	1年次	○紙・デジタル、双方の良いところを上手く活用し、業務や動きの「見える化」を図るとともに情報共有を細やかに行う。	○放課後の会議を必要最低限のみとする。	B	○可能な限り、クラウドや書面にて共有を行うようにしている。 ○対面での会議の議題等について、もう少し精選できないかが検討課題。	B	概ね精選できている。 今後も会議というかたちでなく、日常で共有を少しずつ行っていくことを心がける。	学年間を超えて情報を共有する方法について、もう少し検討していく余地がある。
	授業改革PT	○Google Chat を活用して情報共有の効率化を図る。 ○Cloud by default をさらに促進する。 ○来年度のICT担当組織が業務をスムーズに行えるよう引継ぎ資料を残す。	○80%以上の教員が Google Chat で授業改革の取り組み等を発信する。 ○各分掌等のクラウド活用率80%以上 ○ICT関連業務の引継ぎ資料を残す。 3項目達成(A) 2項目達成(B) Bに満たない(C)	B	○Google Chat での発信は限定的。授業改革の取り組みと併せて発信も呼びかける。 ○各分掌等でクラウド移行が進んでいる。 ○業務整理をし、情報関連分掌(室)の設置を提案する。	B	○Google Chat での発信は限定的であった(30%程度)。 ○各分掌等のクラウド活用率は平均して80%程度と思われる。 ○ICT関連業務の整理ができた。新しい分掌の提案ができた。	○Google Chat をさらにうまく機能させたい。気軽に投稿でき、悩みなどの相談もでき、授業見学や議論のきっかけになれば理想的である。 ○ICT関連業務については本PTから切り離されることになるが、授業改善にもつながるので Cloud by default を引き続き呼びかけていく。
	学校広報PT	○年間ガントチャートに従い、計画的に進める。	○年度当初に計画したものが実施できる。	B	○年度当初の計画に沿って実施できている。	A	○年度当初の予定より実施時期が遅れたものもあるが、計画に沿って実施することができた。	○本校の情報のより効果的な発信方法の検討を進める。

\* 評価は… A:達成 B:ほぼ達成 C:達成がまだ不十分

\* 分掌毎に一枠をお使いください。枠が不足の時は「挿入」で枠を増やしてください。